

令和2年第1回大河原町総合教育会議議事録

日 時：令和2年2月26日（水）午後1時30分～3時

場 所：大河原町役場 2階 第1会議室

出席者：大河原町長 齋 清志

大河原町教育委員会

教 育 長 鈴木 洋

委 員 舟山幸枝 一盃森広志 丹羽宜博 小山明子

教育総務課 課長 佐藤勝弘 学校教育専門監 池田尚人

課長補佐 蜂谷朋香 施設管理係長 小野寺堅一

生涯学習課 課長 八島良隆

事 務 局

総 務 課 課長 木村淳一 課長補佐 菅野敏洋 庶務人事係長 佐藤芳信

（事務局）

それでは、令和2年第1回大河原町総合教育会議を開催したいと思います。はじめに大河原町長齋清志よりご挨拶を申し上げます。よろしくお願いします。

（齋町長）

皆さんこんにちは。皆さま方には日頃より、本町の教育行政に対し様々な場面においてお力添えをいただいているところでございまして、心より感謝申し上げる次第でございます。本当にありがとうございます。

さて、平成27年から地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正となりまして、町と教育委員会が意思疎通を図るため、このような総合教育会議を年1回ないし2回程度開催することとなりました。会議の設置につきましては自治体の長、いわゆる町長名で出されたところからスタートしているところでございます。

本会議につきましては、いろいろと目的があるわけですが、意思疎通を図ることももちろんそうですが、教育それぞれに課題もありますし、また、それぞれに考える、あるべき姿というものもあろうかと思います。私が考えている大事な視点は、民意を反映した教育行政ということでございまして、つまり、皆さんそれぞれにお考えになっていることを聞かせていただいて、そして、更に良い方向への推進を図っていく、というのが大事なことであろうと思っているところでございます。

人口減少に歯止めがかからない現状の中、地方創生も5年目となりますが、その間、広域連携で様々な新しい取り組みがなされました。しかし、広域連携の実はあまり上がっていないという認識が多いのではないかと私は受け止めております。人口減少に歯止めがかからないという状況の中で、5年が経過し次の5年、第2次地方創生に来年度から入っていくということになります。もちろん長いスパンで見えていくということが大事で、人口

が減ってもどう活力を維持していくのかということで、人の数、人口だけではない面も多々ありますが、更に危惧されることが子どもの数の減少でございまして、仙南地域全体では1年間に500人くらいの子どもの数が減る状況が、今後続いていくと思います。

大河原町の人口は大きくは減らないと私は言っているのですが、それでも一昨年は28人ほど減っています。昨年は少し減少幅が広がりつつあるのかなと考えておりますが、しかし、大河原町の状況からすると、おそらく他の自治体にはない状況であるということも一方では言えると思っております、人口が減らない、子どもの数・働き手の数が大きく減らない、税収の総額が維持されているという、すごく恵まれた環境にあります。

普通、町民税が減ったり町民法人税が減ったりすると、他にも拍車がかかってガタガタと減っていくのですが、本町は、新しい住宅がどんどん建って、固定資産税がそれをカバーする、都市計画税も上乘せになるというようなことで、入ってくるお金の総額があまり変わらない。このことが責任を持った財政計画を立てて推進していく上では、非常に大事なことであり、本町はそういうことができております。支えてくださっているのは町民の皆さんですので、大変ありがたいことであると受け止めているところでございます。

これまでの1年間の補正予算というものを3月議会にお出しします。生まれる子どもの数が減りますと、減ったことに伴う減額補正というのがいろいろな項目にでてきて、予算を見ていく中でも、やっぱり子どもの数というのは非常に大事なと感じております。

いつも申し上げますが、子どもは大人をつないでくれている存在でもありますので、人がつながらなくなるという現象に、子どもが減れば拍車がかかるということが、当然、目に見えて明らかになってくるところでございまして、なかなか、本町だけ良ければいいという話でもないということを考えますと、抱えている課題は、相当根深いのだなというふうにも受け止めているところでございます。

今日は忌憚のない話を聞かせていただくということで、民意の反映ですから、皆様のご意見を聞かせていただくということに大きな意味がありますので、重ねて申し上げますが、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

(事務局)

ありがとうございました。続きまして大河原町教育委員会鈴木洋教育長より、ごあいさつを頂きたいと思います。よろしくお願いします。

(鈴木教育長)

改めましてこんにちは。この総合教育会議につきましては、ただいま町長のご挨拶の中にもございましたけれども、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第1条第4項に規定されておりました、大河原町では、平成27年度に第1回目の総合教育会議が開催され、今回で5回目の開催ということになります。この総合教育会議は、予算の権限を持つ首長と教育委員会が協議・調整することによりまして、教育政策の方向性を共有し、一

致して執行にあたることを可能にするものであります。

大河原町は、ご承知の通り教育に関する予算につきましては、子どもたちが、これからの日本や町の未来を創るということで、町長のお考えにより、教育最優先で最大限の予算措置をしていただいております。本当にありがたいことだと考えております。

さて、現在の大河原町の児童・生徒の状況についてでございますが、詳しくは後で担当者のほうから説明があると思いますが、学力につきましては、小学校が全国学力調査で、5年連続全国値超え、中学校は学力向上の兆しが見られます。

不登校につきましては、小学校で増加がみられ、中学校でも不登校出現率が高止まり傾向にあります。いじめ問題につきましては、いじめ認知件数が増加しておりますが、今年度、「全学級道徳授業の日」の実施などによりまして、今年度はやや減少傾向にあると捉えているところでございます。

体力につきましては、中学2年女子が県平均を下回ったものの、小学5年の男女、中学男子は、県平均を超えています。しかし、学力向上も、不登校もいじめ問題も、体力向上についても不断の施策を展開し、町内5校の教職員と同じ方向を向いて取り組まなければ成果は上がらないものと考えております。

本日は児童・生徒の状況以外でも、GIGA スクール構想、トイレ洋式化等のより良い教育環境の改善等についてもご意見をいただき、今後の大河原町教育の振興が図られるよう、様々な視点から議論できる場と考えていますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

(事務局)

鈴木教育長ありがとうございました。続きまして3番の議事に入ります前に会議の議長について決めさせていただきたいと思っております。この会議の進行、議長につきましては、大河原町総合教育会議の設置等に関する要綱第4条第1項で町長が務めるということになっておりますので、議事の進行を町長にお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。

(齋町長)

それでは、早速議事に入らせていただきます。説明は往々にして堅苦しい話がずっと続くということになりますので、一つひとつ進めさせていただいて、説明の後に質問はその都度していただいて、最終的にはトータルで意見のやり取りということで進めさせていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか、よろしいですか（各委員より、「はい」の声あり）。

それでは、そういうことで進めさせていただきます。事務局の紹介はどうしますか。（委員より、「新しく教育委員となられた方もいらっしゃいますので・・・」の声あり）。

(齋町長)

そうですね、それでは事務局の紹介をお願いします。

(佐藤教育総務課長)

はい、それではまず、教育委員会の事務局をご紹介します。私は教育総務課長の佐藤勝弘と申します、よろしくお願いします。続きまして、生涯学習課長の八島良隆です(生涯学習課長一八島でございます、よろしくお願いします)。続きまして、学校教育専門監の池田専門監でございます(学校教育専門監一池田です、よろしくお願いします)。続きまして教育総務課の蜂谷課長補佐です(教育総務課課長補佐一蜂谷です、よろしくお願いします)。学校施設の担当となります、小野寺施設係長となります(教育総務課施設管理係長一小野寺と申します、よろしくお願いいたします)。

(木村総務課長)

続きまして事務局を務めさせていただいております、私、総務課長の木村と申します、よろしくお願いいたします。続きまして、進行を担当させていただいております、総務課長補佐の菅野でございます(総務課課長補佐一菅野です、どうぞよろしくお願いいたします)。それから、ただ今席を外しておりますが、庶務人事係長の佐藤も出席させていただいておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(齋町長)

それでは、(1) 教育に関する重点施策について説明をお願いします。

(佐藤教育総務課長)

はい、教育に関する重点施策について、1 ページ目を開いていただきまして、教育委員会の予算、初めに教育総務課、続きまして生涯学習課ということで説明させていただきます。主だった新規事業・継続事業というところを説明させていただきます。町長の施政方針の中では、学力向上を基本とした教育のブランド化ということで、教育費につきまして考慮いただいております。

では、最初に大河原町長期総合計画及び教育指針基本計画の中での重点施策ということで、主には長期計画の3 年目となりその中での主だったところでございます。全てを話していきますと時間が無くなってしまいますので、重点なところだけお話しさせていただきます。

第5章の重点施策の中では②でございます。教育環境向上の推進の中で、外国語指導助手派遣事業ということで、こちらのほうが、来年度の予算の中では今までの2 人配置から3 人配置へということで拡充し、来年度の予算額については、1,000 万から1,500 万となり、予算を増額する予定になっております。

続きまして、下の教育環境整備事業ということで、元年度に2,000 万、今回1,100 万と

いうことになっておりますが、今年度事業の、町内各5校の長期授業化策定事業業務委託のための予算1,200万ほどが、今回無くなっているところで、元に戻った予算になります。その計画については、来年度からそれを反映しながら長期計画の中に盛り込むという予定でございます。

続きまして、児童生徒の国際交流事業となります。新規事業になりますけれども、こちらについては、今年度も中国上海にて国際交流を行っております。国際交流を行うための費用として、中学生の未来会議の中で出た意見等も踏まえまして、今のところは中国と上海との国際交流のための旅費の費用を予定しているところでございます。

続きまして、心のケアハウス事業となります。こちらにつきましては、元年度予算と2年度の予算についてかなりの差がございますけれども、心のケアハウス事業自体は変わりませんが、来年度から臨時職員等については、会計年度任用職員制度の採用というところで、人件費分の費用が総務課の事業予算となりますので、人件費等を抜いた予算となっているものでございます。

続きまして、学力向上推進事業ということで、こちらのほうも人件費等の予算の部分は無いんですが、この中には町採用職員ということで、任期付き教職員、先生方について今まで大河原中学校に勤務していただいているところですが、今度は、きめ細やかな指導授業ということで、その学力向上の一環として、先生を2人から3人へ配置いたします。また、各中学校に1人部活動指導員を配置ということで、2人を配置するというところで、事業が盛り込まれております。

次に、指導者用指導書・教科書整備事業で、こちらにつきましては、来年度小学校の教科書改定、指導書改定によりまして、新規に教科書及び指導書の購入を行うということで、新規の費用を充てているものでございます。

次のページを開いていただきまして、同じように大河原南小学校につきましても、大きく変わっているところでございますのが、同じく教科書の改定による指導書の購入ということで190万を挙げております。

続きまして金ケ瀬小学校の予算についてお話させていただきます。②学校施設の長寿命化・改築の推進ということで、グラウンドの改修事業ということでございます。小学校3校の遊具改修を行うにあたり、来年度は金ケ瀬小学校の遊具を改修するというところで270万を計上しています。また、金ケ瀬小学校も同じように教科書改定による指導書購入ということで190万の予算を計上しております。

続きまして、大河原中学校の予算となります。変わっているところでは、②学校施設の長寿命化・改築の推進の中で、学校改修事業がございますが、新規で100万ほどの予算をとっております。これにつきましては、給食センターの解体に伴う通信線の改修ということで、給食センターを経由して大河原中学校に通信線が入るその移設費用として計上しているものでございます。その下につきまして、体育館改修事業ということで、こちらのほうが大河原中学校の屋内運動場建替えに伴う設計業務ということで、来年度には4,500万を計上しているところでございます。平成元年度には体力度調査と将来計画の策定業

務を終わらせる予定としております。

続きまして、学校給食センターについてでございます。学校給食センターにつきましては、すでに金ケ瀬中学校の隣に、新給食センターが、令和元年8月末から開設運営しております。その中で④学校給食センター整備の、旧学校給食センターの解体事業ということで、新規に5,500万円ほどの予算を、この中には今までの排水処理地下タンク等元々あった倉庫とか全てを合わせた費用が盛り込まれているものでございます。先ほどの大河原中学校体育館改修事業に伴う一貫した事業となります。

簡単ではありますが、以上で教育総務課の予算の説明とさせていただきます。

(齋町長)

はい、それでは八島課長

(八島生涯学習課長)

はい、それでは引き続き生涯学習課からご説明をさせていただきます。4ページ中ほどの第4項、生涯学習等に関する基本計画でございます。まず、生涯学習課といたしまして、①をご覧ください。地域学校協働活動事業、それから放課後教室事業、これにつきましては、令和2年度に、これと合わせまして地域学校協働本部を立ち上げてまいりたいと考えております。将来的にはコミュニティスクールなどの準備を令和2年度で進めてまいりたいという考えでございます。

(2)の中央公民館でございます。中央公民館管理運営事業のところでございますけれども、これまで、屋上の水道のタンクへ、水を引っ張りまして、そこから給水をしておりましたが、それを廃止いたしまして、250万ほどで水道の直圧で水道の本管から引っ張ってくる工事を令和2年度行う予定でございます。

次に金ケ瀬公民館でございます。トイレ改修を全面的に行う予定でございます。450万ぐらいでございますけれども、すべて洋式にしまして、ご利用いただく方々の快適性をアップするための工事を行うものでございます。

5ページ第5項芸術文化のところでございます。②の文化財保護事業でございますけれども、令和2年度につきましては、大河原小学校の敷地内に代官所跡、それから御飯屋の跡ということで、昔、ございましたので、その説明板を設置して広く町民のかたに周知を図ってまいりたいと考えております。

第6項スポーツ関係でございます。①生涯スポーツの振興となっておりますが、スポーツ推進事業でございますけれども、令和2年度、総合型地域スポーツクラブを令和3年度に立ち上げるための具体的な方策と準備を進めてまいりたいと考えております。

最後でございます。②の体育施設の効率的な維持管理関係でございますけれども、令和元年度、今年度で総合体育館、それから東部屋内運動場のLED照明化を図ってまいります。それに合わせて、体育施設の効率的な運用をさらに上げていきたいと考えております。

生涯学習課は以上でございます。

(齋町長)

はい、ありがとうございました。重点施策は来年度の予算に反映された事業の説明で、拡充されるもの、新規で組み込まれたものの説明でございました。

ご質問ございましたら。

(丹羽委員)

質問ではないのですが、よろしいですか。

(齋町長)

どうぞ。

(丹羽委員)

大河原中学校でこの前、校長・会長会というのがあったのですが、今年になって白石市から大河原町へ転入された先生が私のお隣にいらしたんですが、「白石の給食と比べると大河原の給食はおいしい」、と褒めておられました。

嬉しいことですね、ありがたい言葉だなあと私は思いましたので、あえてご報告させていただきます。

(齋町長)

質問だけではなくて、お褒めいただくのは大いに結構でございますので、よろしくお願いいたします。

それでは先に、時間が限られておりますので、説明を進めさせていただきます。(2) 教育施設の整備計画についてお願いします。

(佐藤教育総務課長)

それでは(2)の詳細につきましては、小野寺施設係長のほうから説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

(齋町長)

では小野寺君をお願いします。

(小野寺教育総務課施設管理係長)

それでは私、施設管理係の小野寺からご説明させていただきます。資料に基づきご説明させていただきます。

(2) 教育施設の整備計画につきまして、今年度、また今年度以降の主な大きな事業につきましてご説明申し上げます。まず1の国土強靱化関連事業ということでございまして、(1)の各小・中学校のトイレ改修事業について、今年度、工事の予定を計画してお

ります。

概要としましては、各小中学校のトイレにつきまして全て洋式化に改修、また、災害時の避難所にも体育館等が指定されておりますので、そういった避難、災害時にも対応可能なトイレ、また、各小中学校のトイレの床につきましては、タイルですべる床が多く存在しますので、そういった部分についても改修の計画を予定してございます。概算事業費といたしましては、設計及び工事を含めて総事業費で3億5,450万、財源につきましては、国の補助事業または、起債事業などを活用しながら進めてまいりたいと考えてございます。

(2) 大河原中学校屋内運動場の増改築事業、こちらが今後の大きな事業でございまして、大河原中学校体育館の建替え事業となっております。内容としましては、既存施設につきましては築55年という長い年月を経過してございまして、老朽化が結構進んでおります。こちらの体育館につきましては、令和元年度に、体育館の危険度調査というのを実施してございまして、建物がもう建替え時期にきているということで、県の承認もいただいております。国の補助事業を活用して建て替えを実施してまいりたいと考えてございます。

計画として、今年度につきましては、実施設計ということで、約4,500万ほどの実施設計、計画を行い、実際の工事につきましては、令和3年度に実施をしまして、令和4年度の4月から供用を開始する計画でございます。

スケジュールとしまして、資料の下段部分にございますけれども、今回、この建替え事業に伴う大規模事業評価委員会というものがございまして、3月に関係機関の委員の方々に計画概要をご説明する段階でございます。基本設計、実施設計が令和2年4月から12月までを予定してございまして、工事費につきましては、国の補助金の内示が出ましたら、補正予算措置を行い、工事費を予算化をして実施してまいりたいと考えております。

2ページをご覧ください。こちらのほうは実際の工事予定が令和3年の2月から来年度の令和4年の3月までを工事期間として、令和4年4月に供用開始予定です。解体につきましては、完成後の令和4年5月から令和5年3月までの、1年間かけて解体工事を行いまして、さらにその翌年には、環境整備といたしまして、駐車場の整備を計画しております。概算事業費といたしまして、設計から工事等全部含めますと総事業費で7億6,200万ほどの事業費となっており、財源内訳につきましては、国の補助金、起債措置を活用いたしまして実施してまいりたいと考えております。

続きまして、3ページをご覧くださいと思います。こちらにつきましても、今年度の大きな事業の一つでございまして、「GIGAスクール構想」という各小中学校のICTの環境整備でございます。こちらは、国で今年度の補正予算措置を行い、各学校全学年児童・生徒1人1台の端末を持った環境整備、また、校内の端末に対応できるLAN整備を行うことを目的とした、構想が出たところでございます。これを受けまして、本町としても将来を担う子どもたちの、1人1台端末に対応した教育ICT環境を実現するために、補助事業を活用して実施していくものでございます。

(1) 公立学校情報通信ネットワーク環境整備事業といたしまして、校内のLAN整備の

事業でございます。事業概要は、校内の LAN 整備、端末の電源キャビネット整備工事の補助事業となっておりまして、概算事業費といたしましては総事業費で 1 億 480 万円。財源につきましては、国庫補助が 1/2、残りは起債措置ということで、こちらのほうも活用して実施してまいりたいと考えてございます。

続きまして 4 ページをご覧くださいと思います。同じく、GIGA スクール構想の事業の一つでございまして、各学校への端末整備事業ということで、1 人 1 台の学習用端末、コンピュータ、パソコン等機器の、整備事業でございます。こちらにつきましては、補助対象内容として、全児童・生徒数の 2/3 は、国のほうで 1 台あたり 45,000 円を上限といたしまして、補助が出る予定となっております。残りの 1/3 分につきましては、毎年の地方財政措置ということで対応してございますので、町において、令和 4 年度まで整備してくださいということでございます。

補助対象機器としましては、学習用タブレット、キーボード等になってございまして、今現在各学校では、教員用のタブレットについて、整備済みでございます。子どもたちの学習用の端末につきましては、今現在は各学校のコンピュータ教室を利用していますが、今後、やはり 1 人 1 台に対応したタブレット、iPad 等を考えてございまして、整備していく予定でございます。

概算事業費につきましては、端末整備で 7,879 万円、財源につきましては、こちらは定額補助となっております。2/3 の児童・生徒数分 1,326 台分については、国庫補助が約 6,000 万円と、残りは一般財源ということで、実施してまいります。

今後のスケジュールにつきましては、この事業について、今年度の 3 月の議会で、補正予算措置を行い、こちらがお認めになれましたら、実際、繰り越し事業といたしまして来年度いっぱいをかけまして、工事、端末の整備を実施してまいりたいという考えでございます。

資料の 5 ページをご覧くださいと思います。各事業のスケジュールを一覧にしてまとめたものでございまして、今年度の令和 2 年度につきましては、トイレ改修につきましては、実際の工事業務、大中体育館につきましては、設計業務、GIGA スクール構想につきましては、こちらのほうは工事と端末整備、という予定で考えてございます。

続きまして資料の 6 ページにつきましては、GIGA スクール構想の概要でございますので、後程ご覧になっていただければと思います。続いて 7 ページ目につきましても、こちらは国の補助制度の概要でございますので、こちらのほうも説明は割愛させていただきます。

8 ページのほうをご覧くださいと思います。先ほどご説明申し上げました GIGA スクール構想の国の考えているロードマップとなっております。まず、一番上の部分ですが、こちらの赤い矢印の部分が、令和 2 年度までに、全国の小中学校で通信ネットワーク、校内 LAN までは整備してください。ということでの、国のほうで考えている計画でございます。実際の端末の整備につきましては、令和 4 年度の末までに生徒 1 人 1 台の端末を整備してください。という計画で進めていくこととなっております。これに対応して、本町

につきましても、今年度補正予算に上げまして、端末整備についても前倒しで早急に整備を進めていくような計画で考えてございます。

資料の9ページをご覧くださいと思います。こちらは校内 LAN のモデルケースでございまして、こちらのほうは参考までにご覧いただければと思います。

最後に、10ページ目をご覧くださいと思います。こちらにつきましては、国のほうの最終的な目標といたしまして、子どもたち一人ひとりに、様々なコンテンツの提供として、国では、デジタル教科書などを構想に入っているということです。こちらのほうも、遠隔指導、遠隔教育なども考えているということで計画をしているとのことでございます。

以上で教育施設の整備計画について説明を終わります。

(齋町長)

はい、これから進める教育施設の整備計画でしたけれども、係長はさっと説明しましたが、これで13億円の投資でございました。これ、見てお分かりだと思いますが、国の予算の出方がガラッと今までと違ってきています。他もそうですけれども、期限が切られていて、「はい申し込んで」という様子なんですね。それを逃すと、補助に係る優先順位が、様々な取り組み、給食センターは下から何番目かで結局補助金つかなかったんですけれども、そういう具合に、予めランク付けされているような形になっていまして、逃すと補助金が出ないという形が非常に多くなりました。

手を挙げる人が少なくて予算が余ると、立て続けにまた補正が出てきて、次、2次募集と、こうなるんですけれども、いずれにしろ必要なことはやるということで、ハード事業も含めて進めていくわけですけれども、実は、ハード事業については、給食センターをやって、桜保育所をやって、大中体育館をやりましたら、他にも南小の大規模改修とかいろいろありますけれども、大きなハード事業は当面もう無い、ということで位置付けて進めてきたところでございます。

国の施策に合わせて、やるべきことがやれるということなので、台風被害も大きかった中、財政事情は決して楽ではないんですけれども、今ここで逃してはならないなということで、教育長とも相談しながら、予算建てを進めてきたところでございまして、繰り返しますが13億円の投資でございます。

ご質問等ありましたら、どうぞお出しいただきたいと思います。

よろしければ、先に進めさせていただきます。(3) これは本町にとってもあるいは町民の皆さんにとっても、「誇り」ということにつながっているなあと実感を持っておりますが、学力向上と教育のブランド化について、これ、池田先生ですか？(池田専門監ーはい) はい、説明をお願いします。

(池田学校教育専門監)

はい、それではこちらの(3) 学力向上と教育のブランド化という冊子をご覧ください。

まず初めに、1 ページ、2 ページ目は、過去 6 年間にわたる全国学力学習調査の状況・変化を表したグラフになります。一番右側、平成 31 年、令和元年度につきましては、今年度から調査方法が変わりましたので、表示が変わっております。昨年度までは国語も算数・数学も、A 問題、B 問題ということで、基礎的な問題とそれから応用の問題と分かれていたんですが、今年度から一括ということになりましたので、表示が変わっております。

先ほど、教育長からお話がありましたように、1 ページ目の小学校につきましては、おかげさまで 5 年連続で全国平均を上回っているという状況にあります。算数については、小学校プラス 3.4。国語についてはプラス 1.2 という状況にあります。それから中学校のほうですが、学力向上の兆しがあるという風に言っていただきましたが、昨年の 3 年生は小学校時代から学力面で高かった学年だったんですけれども、その一つ前 29 年ではちょっと低かったということで、学年差があるところではありますが、徐々に全校平均 0 のところに近づいてきているなという感触があります。

国語については、全国平均よりマイナス 0.8、それから数学については、マイナス 2.8 ということでございます。今後もこの辺、各学校で取り組みをしながら、力をいれていきたいなというところでございます。ただ、小学校の国語につきましては、今年度の問題を見てみますと、非常に長文でして、子どもたちがいかに見返すかとか、そういったことができないと解けない問題になっています。そのような問題が過去問にあるとか、各学校に呼びかけをしているところでございます。

3 ページ 4 ページにつきましては、このグラフの今年度の状況になります。特に 3 ページにつきましては、扱いを、十分気を付けていただきたいなという風に思っております。先ほどのグラフの平均したものを、数値で表しておりますが、一番左側、小学校の国語につきましては、ご覧のとおり金ケ瀬小学校が平均正答率 75 ということで、他県の細かい市町村の数字は分からないので、何とも言えないところではありますが、秋田県を超えているという状況です。それから、大河原小学校については、67 というところで、平均にしますと大河原町は 65 という状況です。が、一番下を見ていただきまして、大河原南小学校は、53 と、平均正答率半分程度というところになります。

同様に算数は、金ケ瀬小、それから大河原小学校は 1 番の石川県を超えているという状況ですが、南小学校については 59 ということになります。それから、そのお隣中学校につきましては、報道もされてますけれども、仙台市、非常に中学校が高い、この辺はおそらく塾に通っている子がほとんどなんだろうなと思われるのですが、ここに近づきたいというのが、目標でございます。大河原町につきましては、国語平均 72、大河原中学校 71 で、全国平均 72.8 です。もう一歩、もう一問ずつ取れると全国平均に入るかなというところでございます。

それから、数学も金ケ瀬中学校についてはほぼ全国平均になっており、大河原中学校については、ここも後 2 問程です。頑張ってもらえると全国平均に追いつくというところで、本当にちょっとしたところだと思うんですけども、更に声をかけていきたいなというところです。

ただ、今年度初めて行われました英語につきましては、課題があるかなあというところ
です。ただこの英語の調査につきましても、初めて行われてですね、しかも、パソコンを
使って、インカムを使ってですね自分でしゃべるというような内容でして、私もその様子
を見に行っただけですけども、ちょっと苦手だなというお子さんは、周りがしゃべるのを聞
いてから「何とか！」って答えるんですね。そうするとみんなそれに誘導されてしまって、
同じ答えになると、あれでいいのかなあというようにありましたので、今後この
GIGA スクールも含めて町あるいは市町村の ICT の環境が揃うと、また違った方向での調
査方法になるのではないかなという風にみております。

5 ページをご覧くださいまして、今のものをグラフ化したもので、大河原南小学校です
ね、非常に課題があるというのが、見て取れるかなあというところでございました。この
子どもたちが、やはり大河原小学校と一緒にって大河原中学校に入るといったところ
でや、やはり中学校でも指導が二極化していくという部分があるかと思えます。この点に
ついて、先ほど課長からお話がありましたように、次年度は大河原南小学校に町独自の教
員を1名配置して、きめ細やかな指導を行っていくという取り組みに繋がっているところ
でございます。

6 ページからは、今年度新聞等で取り上げていただいたものを上げさせていただきます
ました。6 ページは4月に、大河原南小学区の子どもたちが、桜祭りをPRするためのペッ
パーにプログラミングしたものが紹介されております。7 ページは、同様に桜まつりの会
場を大中の生徒が清掃をした記事、そして8 ページ、こちらはオリパラに向けての取組と
いうことで、とりあげていただいたものでして、高橋さんが以前、聖火ランナーで走られ
たということで、その講演をいただいた時の様子でございます。

飛びまして10 ページ、これも大河原町の特徴になっておりますが、大河原算数チャレ
ンジ、数学オリンピックを取り上げていただきました。こちらもおかげさまで軌道に乗っ
ておりますので、今後も引き続き行っていきたいなと思っております。11 ページ、教育
長から先ほどありましたが、今年度初の取組として、授業参観のときに、全学級で道徳の
授業を行いました。その中で「命の大切さ」を取り上げていこうということで行ったもの
でございます。

12 ページ、こちら大河原中学校の白石川の清掃ということで、今、大河原中学校の
ほうでは、本当にボランティアのほうで力を入れて取り組んでいきたいということで行
っております。また、今日の資料にはありませんが、先日もですね、避難所開設訓練と
いうものを行いました。次年度も、子どもたちのこの学力、それから運動面部活動、それ
だけではなくて、ボランティアのほうでの活動を更に広げていきたいという風に大河原
中学校では考えているようです。

13 ページです。これも次年度新規事業で計上させていただいておりますが、今年度か
ら上海の学校と小学校中学校が交流するというので、夏に中学生6名が上海に派遣さ
れました。その際、こちらちょっと写真入れなかったんですが、こういう一部ですけれ
ども、上海の中学生と子どもたちがグループを作って、共通課題で、みんなの前で発表する

というその姿です。お互いに ICT を使いながら臆することなく発表する姿を見て、子どもたちに合う課題を与えることで、いろんな力を発揮できるんだなあという風に思いましたし、この中に参加していたお子さんは、先ほどお話しした避難訓練や避難所開設の中心メンバーとして指揮をとっているというところで、やっぱりこういった子どもたちの自己有用感であったりとか、そういったものに繋がっているなあと実感しているところです。

最後 14 ページですがこれも伝統となっております大河原中学校での立志式ということで、やはり子どもたちには、いろんな面での活躍や認めてもらえる場面がそれぞれ設定できているのかなあということで、今後も大河原の子どもたち、期待できるなあと思っていますところでは。

以上でございます。

(齋町長)

はい、ありがとうございます。衝撃であったのは学校間格差、学力格差、ではなかったかなと思いますけれども、これにどう役場として対応できるのか、限界は当然あるわけですが、任期付き教職員を 1 名配置ということで対応していくことを具体的に来年度予算に盛り込んだところでございます。

これは私の私見でありますけれども、影響を及ぼしているのは、家庭の困窮状況ではないかという風に私自身は受け止めております。どこの例を見ても家庭の状況、貧困と学力の関係というのは、当然、関係があるという結果が示されているという風に、私も感じております。これは本当に皆さんからたくさんご意見いただきたいところでございますけれども、学力が高いということだけじゃなくてですね、格差があるというところに目を向けてこれから取り組んでいきたいと考えているところです。

何かご質問ございませんか。なければその他は、その他も本当は防災教育とかね、コミュニティスクールとかね、いろんな話、皆さんのしたい話などと思っていたんですけども、そこまでたどり着けるかどうか時間が限られておりますので、今までの教育委員会に関する重点施策について並びに教育施設の整備計画について、更には学力向上と教育のブランド化について、皆さんの発言そのものが私は民意の反映として大事に受け止めさせていただくという気持ちでおりますので、どんなことでも結構ですので、ぜひお話しいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(一盃森委員)

それでは。

(齋町長)

はい、どうぞ。

(一盃森委員)

ありがとうございます。いろいろ説明をいただき、定例の教育委員会の会議の中でも、先月あたりから1月2月と、事業推進のための予算組のことも含めてお話をいただいている、今日改めてご説明をいただいて非常によく分かりました。13億の投資という、言うまでもなく、教育環境整備として人づくりを進めていくということは、よく言われております「100年の計」という、非常に先の長い話の中での取組なんだろうということですが、今日ここで説明されましたこと、例えば新規事業の「GIGA スクール構想」などもそうですが、一旦整備を進めていくからには、継続的に、それを活用していけるような取り組みというか、環境整備を、事業そのものについては、周期があるものだと思いますが、環境を生かして更に続けて、教育活動を進めていくということでは、違った形の事業になったとしても、それを継続していけるような形でですね、ぜひ町のほうでもご配慮いただければいいのかなと思っておりました。

先日の定例会の中でも発言をさせていただいたのですが、教育そのもののありようが、ガラリと変わるのだろうと思っています。「GIGA スクール構想」もそのとおりですけれども、いながらにして、どこともつながれるわけですし、いろんな知識も取り込むことができる。知見もそのとおりですよ、取り込んでそれを活かしていくというような環境が、できつつあるわけですから。言われているように10年20年で職業そのものがガラリと変わるともいわれていますよね。半分近くは今ある仕事が無くなって、新しい仕事が出てくる、そういう時代の中の教育ということも見据えたときには、やはりそれなりの継続的な取り組み、予算も必要になってくるのかなあと考えております。

やはり大河原町で時代を担う子どもたち、人間を育てていくということは、つまり、それに見合ったような環境を整えていくことにつきるんだというふうに考えておりましたので、ぜひ、その点をまずお願いをしたい。一方で、やはり大河原町の地域環境の中で育っていく子どもたちなわけですから、大河原のいいところはいいところとして、鈴木教育長さんにな変わられて積極的に取り組んでおられる、例えば外に出て行って、環境に目を向けるですとか、ボランティアの活動に心掛けるですとか、人のことを思いやっていますね、やさしい思いやりということも含めての教育活動を積極的に進めていくということは、両面あって初めて人間教育ということになるんだろうと思いますので、併せてそういったところも継続的に取り組みいただければいいのかなあと考えておりました。

それから最後にちょっと出ましたが、大中のボランティアで避難所の運営をというようなこと。ボランティア室や、校長先生はボランティア部というのを作りたいと言っておられましたけど、部活動として位置付けていきたい。要するに常時活動として取り組んでいきたいというような話でしたが、避難所の運営・設営の訓練というところから始まっていますが、ぜひ、地域防災の中の一つとしてですね位置付けていただくといいのかなあと、ずっと私は思っていて、やはり、何かあったときに、学校って一つの起点になっていきますよね。学校教育からもそのような視点での「地域防災・地域安全」ですよ。

学校安全も含めての地域安全というようなことを発信していく。そのときに地域の皆

さんと一緒に取り組んでいけることができる環境を作っていく。それこそコミュニティスクールの話もあるわけですが、まさしくタイムリーにそういったことができる環境が整いつつあるのかなあと思っておりまして、ぜひそういった視点・方向性を持って、それぞれの取り組んでいることを結び付けて、役場のほうでいえば、各課横断的にとえばいいのでしょうか。そのような取組で教育もその中に入り、展開できるような発想・構想をお願いしたいとずっと言い続けております。

以上です。

(齋町長)

はい、ありがとうございます。一通り皆さんからお話をお聞きしたいと思います。舟山先生から何かございますか。

(舟山委員)

はい、それでは別な視点から。子どもの減少のことが話題になっています。本当にこれは根が深いことで、これはもう、どのように行き着くか私も想像できないのですが、根本的なことの一つには、子どもを産んで育てるメリットというか、今の若い人たちは、それを感じ取られないでいるのではないかと、というのが一つあるんですね。

やはり、子どもを産み育てる上での、女性の社会進出できる環境づくりができていないと。「大変だあ、子どもを育てるの大変だあ」、というイメージしか無いのではないかと私は思っているんですが。

ですから、それを簡単に改善できるのは難しいとは思いますが。一つお聞きしたいんですが役場職員の方で、男の方で育児休業とか、去年あたりはどのぐらい取られているんですか？

(佐藤総務課庶務人事係長)

はい。残念ながら、育児休業の取得率は0%です。出産にあたっての短期の休暇、あれは大体ほとんど皆さん取られているんですけども、いわゆる育児休業といって、今盛んにやってますよね、男性職員の育児タッチで1歳までとか、そういった長期の休みをとっている職員は残念ながらいないです。

(舟山委員)

そうですよね。長く休んで、例えば女性のスキルをアップしていけないというか、そんな環境がありますよね。元の職場に戻れなくなり「じゃあやっぱり子ども産みたくない」、とかね。社会に出て活躍したいなと思っている女性はきっとそういう考えに行き着くんじゃないかなと思っています。

大河原町ではぜひ、男性職員にね、子どもが生まれたら必ず3か月休みなさいとか、そういうことを広めていってほしいと思います。とにかく大河原町ではこれを謳い文句に

しますよということでもしていただけると、少しは考え方っていいですか、捉え方が変わっていくのではないかなあと常々思っておりました。

子育てで一番大変なのは、多分母親たちが大変だと思うのは、やはり小学校にあがるまでのことですよね。せっかく保育所に預けても、具合が悪くなるとすぐ帰らなければいけない、周りに迷惑をかける。じゃあ仕方が無いからとにかくもう仕事を辞めてしまおう。かといって5・6年過ぎて職場に復帰したいと思っても仕事が無い。

そのような大きな動きが日本、日本だけじゃなくて全ての世界中にそのような問題はあると思います。安倍首相が、女性の働き方について、一生懸命女性登用と言ってはくださるんだけど、もう少し具体的に現場からそういう声が上がっていけば少しは良くなるかなと常々思っておりましたので、少しは考えていただけたら嬉しいなと思いました。以上です。

(齋町長)

ありがとうございます。それでは丹羽さんよろしくお願いします。

(丹羽委員)

舟山先生、ありがとうございました。今、舟山先生が熱く語っていらっしゃるときに、一盃森先生に聞いてみたんですよ。学校の男の先生方はどうなんだろうってね。そうしたら取ってないそうです、難しいとおっしゃっていました。そういう中での役場の職員の方々も同じだと思うので、果たしてどのようにしたら、そういったことに近づくことができるのかという工夫は必要かと思いました。

それから、教育長さんがおっしゃったとおり、不登校・いじめ・成績・体力という話がありました。池田先生からは、ボランティアの話とそれから、これ、素晴らしいなと思ったのは、自己有用感の話がありました。そして一盃森先生からは、人間教育、環境が人を創る、学力だけじゃないよというような話がありました。

これから絶対に必要なことだと思ふことがあります。皆さんメンタリストのDaigoさんってご存じですか。テレビに出たり本も書いているし、ユーチューバーとしても有名な方ですね。

私が驚いたのは、これほど成功している、しかも頭がいい、なんでもできるあの方が、何も不安も心配事もないのだろうなと思って何気なく聞いていたらこうおっしゃっていました。「実は僕は小学校1年生のときから中学校2年生のときまで、いじめられていました。8年間」。えー！って思いましたね。僕は幼いなりになぜ僕はいじめられるんだろうかと考えました。でも分からなかった。分からないけれどもいじめられた。それで、担任の先生、大人にも相談したけれども、答えを見いだせなかった。担任の先生からは、「お前にも問題があるんじゃないか」と言われた。で、もう、大人に相談してもしょうがないと思った。そして僕は、いよいよいじめられてどうしようもなく、自分には何の魅力もない。自分が悪いのだと、自分には価値が無いんだ、というように自分を追い込んでしま

った。D a i G oさんは、自分は価値が無い人間だと、無力なんだとバンザイして、それ受け入れたそうですよ。受け入れたため気持ちは楽になったそうです。

そういう中であって、僕はそういう中で、ずっといじめられた中で生活していたわけですが、ある時こんなことがあった。中学校2年の時だそうです。工作室で、クラスメイトが僕の母の悪口を言った。僕はカーっとなって、その場にあった工具を思いっきりその子に投げつけてしまったのだそうです。幸いにも相手には当たらず怪我などは無かったのですが、ところがその情景を見ていたクラスメイト達は、「こいつただものじゃねえ」などと思ったことがはっきり分かったそうです。その次の日から僕は何日か学校行かないで、勇気を出してまた学校へ行った。すると僕に対する態度が一変してた。いじめがいっさい無くなったそうです。要するに「あいつは危ない、危ない男だから変なことではできない」ということなんですね。

彼は何を学んだかという、と、「あ、これは人に頼んでもダメなんだ、自分で行動するしかないんだ」と、もちろんモノを投げて人を傷つけたりするなんてことはもっての外ですが、「自分で行動するしかないんだ」ということを学んだ。そして、何をやったかという、と、A4の紙を半分に折って、左側に、自分の嫌いなところ、問題のあるところ全部書き出したそうです。自分でも嫌いなところ、成績も下から3番目、右側には、自分が好きになる良いところを書き出したそうです。つまり、嫌いなところを好きになる。成績が下から3番目なところを上から3番目にしよう。など、全部書いたそうです。そして、実はそのとおり努力して1年ちょっと後には、下から数えて3番目だった彼が、上から3番目になれたんだそうですよ。たった1年でですよ。もともと頭がよかったのでしょうかね。母親がとにかく、本が大好きだったという彼に本を買い与えたということです。そしてその後、要するに、いじめられたときに人を信じられなくなり、壁に穴をあけたときもあった。家庭内暴力などということも当然あったんですね。そのような中での先ほどの事件ですよ、事件を通して、そのいじめが無くなったということであつたわけです。

さあ、そのような中で、いったい何がそのいじめられている子が、あるいは不登校になっている子、あるいはニートになってしまったような人を救えるのかなと考えたときに、自己有用感ということ、先程、池田先生がおっしゃってくださったんですが、実は昨日、テレビ見ておりました。不登校になった子が施設に入り、施設から学校通うわけですが、やはり学校に行けなくなってしまったときに、クラスの子から電話があつたそうなんです。「〇〇ちゃん、私だけど、明日から班編成があるから、〇〇ちゃんが学校に来てくれないと困るんだあ、来てくれないと寂しいし」と言われた。そうすると、その不登校の子が、にこにこ笑って「分かったじゃあ行く」と言つたんですよ。

学校の先生によっては、毎日不登校の家庭に通つてもそれが解消できない場合もあるわけですが、このように、親しくしていた友達1人からの電話で、次の日学校に行けるようなこともあるのだということです。つまり、これもまた自己有用感。自分を迎え入れてくれる環境がある、必要とされている。ということが学べたり実感ができると、人の心って変わるのだろうなあ、たとえ一人だけでもいいから、自分を受け入れる、分かっ

てくれる、そのような人がいる、ということがとても大事なんだろうと思いました。

それからそれを見て思ったのは、校長先生がおっしゃっていたことですが、クラスには問題行動を起こす子もいるし、騒ぐ子も必ずいる。さて、その時に先生に必要なことは、その子は、困った子だという見方と、この子は困っているんだという見方があると。

つまり、例えばクラスに30人40人いたら、みんな困っているんだっていうんですよ。困っていない子なんていない。それは大人も同じで、みんなすまして生活しているかもしれないけれども、悩みの無い、心配事の無い大人は誰もいない。つまり、普通の子なんてどこにもいないんだ。だから、問題行動、騒いでる子どもがいたら困っているんだという見方をする。そしてその先生の思いを他の生徒たちが共有すると、「ああ、この子は困っているんだ、じゃあ、みんなで助けて、支えてあげる、あげなきゃならないだろう」と、そのようになる。なるほどなあと、つまり、あなたを認める、「どうしたんだ？」と、「寄り添う」ということが、子どもを育てる、人間を育てるのには必要なんだろうなあと感じますね。

それから、叱ると褒めるというのがよくありますよね、ハウツー本もあります。どのように叱るか、どのように褒めるか、どのぐらいの割合か、などが書いてある本です。実はそれはもう小手先のことであって、どれだけ相手を褒めたとしても、繁昌院に、うちのお寺に、3年間ずっと下駄箱のところから教室に入れなかった子たちが来た時にですね、「和尚さん、先生、かっこいいこと言うんだ。お前のこと心配してるって言うんだー」。「違うよなあ。お前、来ないほうがいいって思ってる」って。これ、分かりますよこういうのって。やっぱり分かるんだと思いますよ。本当は教室にも入りたいのだろうし、こうあるべきだということを自分の中で分かっているのでしょうけれども、つまり、どれだけ立派な言葉をかけてあげてもですね、相手に寄り添う気持ちが無ければ叱ることも褒めることも生きてこないということですよね。

やはり、寄り添うっていう、その一番大事なことが、どんなに時代が変わっても、AIの時代になったとしても、大人は、親は、先生方にもですね、必要なことなんだろうなと。そして、「あなたは必要なんだよ」と、「大事な人なんだよ」、「困ってるんだろ？俺も相談にのってやるよ」というような、そういう人が側にいてくれたら、立ち直ることができるのではないかなあと感じますね。

難しいことは言わなくていいですね。中学校2年生、女の子からの質問がありました。「和尚さん、どうしたら悲しみは取れるのですか？」っていうから、「難しいこと、かっこいいこと言わなくていい。一緒に泣いてあげなさい」と言いました。あなたが泣いてあげると、その苦しみ、悲しみを抱えている子は、人はね、「一緒に泣いてくれた、私の気持ちが分かってくれた」って、それが励みになるよ、それが救いとなるよ、一緒に泣いてあげてと言いました。もし嬉しいことがあって笑っている人がいたら一緒に笑って、そうするとそれが、励みになるよ、喜びになるよ、幸せにつながるよ。だから、一緒に泣いてあげればいいよと言いました。

難しいことではなさそうに思うのです。大事なことは、相手に寄り添うってことが大事

なのだと思いますね。これは役場の職員の方々も同じことだと思います。やはり上の立場だからって、ガンガン言っても、伸びるもんじゃないし。やはり相手の立場にとって、「いつもあの課長さん、俺のこと心配してくれるんだよなあ。あの課長さんから言われたら頑張るしかないなあ」とか。「あの課長さっぱり心配してないのに、口ばかりうるさい」なんてね。捉え方はねえ、いろいろな捉え方がありますので、やはりその辺のところは人間を育てるということでこれからとても大事なことだと思います。

すみません長くなりました。

(齋町長)

いえいえ。ここで一応切らせていただいて、続いて小山さん、どうぞよろしく願います。

(小山委員)

本当に素敵なお話を伺って、今、丹羽さんからも、困っている子どもに寄り添うというお話がありましたが、今日、「GIGA スクール構想」の話がありましたが、このことも不登校までにいかなくても、教室に入れない子どもたちたくさんいると思いますので、遠隔、オンライン教育の実施など書いてありますが、そういった子どもたちも学べる環境、それぞれの場所でこういった学習ができたり、勉強に興味をもってもらえるような環境を作るのにいい形でつながっていったらいいなあと思いました。

勉強は好きでも、みんなと一緒に教室に入るのが苦手という子どもも、学力をつける場所を得る機会が与えられたら、ほんとに寄り添った教育ができるのかなあと思いました。

(齋町長)

ありがとうございます。一通りお話いただきましたけれども、一盃森先生からは、まあ、私は企業人でもあったのですが、今の時代の変化はほんとに激しくてですね、この環境の変化に対応していくということが生きる道なんですよね、企業は。続けていくということを大事に考えたら、やはり、環境の変化を受け止めて対応するということを考えていかなければいけない。これはまさに教育の現場にも当てはまっていることだろうなあというふうに思いますよね。

そして舟山先生からは本当に女性活躍社会が救うもの。実現していないから何も救われていないと、多分、先生はそう思っただけだと思いますけれども、じゃあ、女性が活躍したらどう変わるんだという動きなどを、ちょっとずつは感じてるつもりなんですけれども、そういうことを、やっぱり大事にしていく。じゃないと、子どもは減り続けていくよというこの現実、この話はつながっていくんだろうなあと感じながら聞かせていただきました。

そして丹羽委員のお話は、前段、大切な気づきとか学びというのは、自分から行動していかないと実は跳ね返ってこないというか、気づきは生まれてこないということをお話

しくださって、そして、人に寄り添うということも課題を乗り越えていく手段になる。今、時代はこういうことを求めているんだけど、なかなか簡単ではないというお話だったと思います。

小山さんはやはり、人を一人ぼっちにしないということ。今、私が一生懸命考えております、社会包摂とソーシャルインクルージョンにつながっている話かなあと思って伺っておりました。やっぱり子どもたちの世界の中にも、当然同じようなことが言えますよね。そしてそれが、文化にもつながったり、もっと大きく生涯学習にもつながったりしていく、ほんとに大事な、そこで人が力をほんとに発揮できたりするのではないかな？

そのまま一人ぼっちにしてたら、何も新しいものがやっぱり生まれてこない。そういう意味では、役場においても、社会包摂は極めて大事なキーワードの一つになってきておりますが、そういう指摘ではなかったかなあと思え止めました。

そろそろお時間に近づいてきましたが、教育長からもお話を頂きたいと思いますが。

(鈴木教育長)

教育委員さんのお話をお聞きしまして、やはり学力はもちろんのこと、この思いやりの心のような豊かな心の育成であるとか、あるいは、みんなで楽しく元気に遊ぶというような体力の面であるとか、知力と体力のバランスの取れた人間形成というのが必要なんだろうなあと思いました。

そのような三拍子そろった子どもたちを育てていかなければならないなあと思いましたし、それからやはりもう一つは、相手意識といいますか、自分だけ良ければいいということではなくて、相手のことを考えて行動する、それができる人間。それがこれから必要となってくるのだろうなあと思います。

企業でよく求められているのが、主体的な取り組みができる人が欲しいと、つまり、人材が欲しいということですので、自分で課題等を見つけてその解決を考えるという、そのような力を持った子どもたち。

将来どんな職業が半減しようが、変化のある社会に対応ができるような人材の育成というのが、必要なのだろうなあと思いました。その一つの手立てとして、GIGA スクール構想もあると思いますので、それが将来、子どもたちの将来に繋がっていくのだろうなあと思います。

(齋町長)

今、ふと思い出しましたが、舟山先生の話の延長線上で、出生率の一番高い県が石川県でしたか確か。福井・富山、あの辺りは高い。どうしてかと調べていくと、共働き世帯、お母さんは仕事に出ているという、それはつまり、女性が活躍している舞台があって、しかもそのことが、出生率にまでつながっているとすれば、まさに、女性活躍社会ではないか。そういうこともあったかあと、今ちょっと思い出したところでございました。

はい、丹羽さん、どうぞ。

(丹羽委員)

今のお話ですが、東京が一番若い世代が多いんだそうですね。ところが、その若い世代に対して、子どもの数は東京が一番少ないそうですね。東京は保育所が足りない、幼稚園が足りない、という状況なんだそうですね。つまり、若者は集まるけれども、子どもは育てにくい環境だと。だからこれからは、子どもが育てやすい環境のところが伸びてくるんじゃないかなと思います。そういったところでは、町長さんはじめ、役場の職員の皆さんには益々ご活躍いただきたいと思います。

(町長)

ありがとうございます。ここで、お時間となりましたので、本日の議事については終了させていただきます。本日は、皆さんより貴重なご意見をいただきました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございます。それでは、以上を持ちまして、令和2年第1回大河原町総合教育会議を閉会いたします。本日はどうもお疲れさまでした。